

インターネットの教育実習での指導方法について I

—ヒューマンネットワークの構築—

The method of teaching practice using the Internet I

角 田 佳 隆 (和歌山大学教育学部附属中学校)

Yoshitaka Sumita (sumita@ajhs.wakayma-u.ac.jp)

・はじめに

今日の教育実習で、の課題は、教員採用試験がますます厳しくなる中で、単に点数を高くとる人たちしか教師になれないという現状になりつつある。つまり、受験戦争を勝ち抜いてきた、点数絶対主義が幅を利かせてきていないでしょうか。その中で学生たちは、教育本来の目的を失ってはいないでしょうか。教育実習に参加する学生の傾向も、教員を志望する学生は、50%を切ってきています。また、指示待ちの学生が増えてきています。

現在、学校教育においては、個を重視する学習が叫ばれてきています。単に学力のみならず、それぞれの生徒たちのもつ個性を大事にし、可能性をのばすことを「新しい学力観」では、うたえています。

教育実習においても、それぞれの学生がもつ個性を大切に、それを互いのよさとして認めあえる環境が必要であると考えます。

また、学生たちが教壇に立ち、育てる子どもたちが、社会に出たときの状況を考えると、21世紀は、現在より、ネットワークが完備され、いまよりさらに、相互のコミュニケーション能力を問われる時代になるでしょう。

現在の状況では、その子どもたちを育てる教師が、コミュニケーションがうまくこなせないものでもでくする可能性があります。

そこで、今、必要なのは、

人とひととのかわり

—「ヒューマン・ネットワーク」—

では、ないでしょうか。

人とひととの関わりは、直接、接することで学ぶことが多いでしょうが、現在の学校現場の状況では、それは、時間的にも地理的にも困難な状況です。

そこで、インターネットを利用した、学生の指導も必要になってくると考えます。

インターネットは、時間と空間を短縮します。電子メールによって、時間は、短縮され、WWWのホームページやテレビ会議システムによって、空間は短縮されます。

学生は、大学にいながら実習校との関わりを持つことができます。そうすることで、密度の濃い教育実習が実施されるのでは、ないかと考えます。

また、学生が、卒業してからも電子メールなどで、教師とコミュニケーションをとりながら、自分の勤務する学校でその教員の資質をのぼすことができるでしょう。また、後輩の学生に対しても、自分たちの現場の経験を伝えることができ、学生からは、違った視点での考えをえることが可能であると考えます。

つまり、ヒューマン・ネットワークによって、人とひととのコミュニケーションの輪が広がり、学生のみならず、現場の教員にとっても有益なものとなると考えます。

また、教育以外の分野からのネットワークへの参加も可能であるので、視野を広くもった、とらえかたが教員に備わるのではないかと考えます。

そこで、インターネットを有効利用し、教育実習のみならず生涯教育としての教員の資質向上の方法を提案したい。

・教育実習の課題

教育系大学に於いて、教員を目指す学生の減少傾向が見られ、教員採用試験もさらに厳しくなっています。そのような状況の中で、学生の教育実習に対するとらえ方にも変化が見られてきました。学生の中には、単なる単位取得のために教育実習に参加し、意欲を持って参加する学生の減少が見られます。

また、教育実習を受け入れる学校では、仕事の煩雑さが増加し、学生に対して十分な指導の時間をとることができなくなっています。

NHKの「教育トッデイ・教師はこうしてつくられる」(1996・6・22放送)という番組でも、教育実習の課題について、

- ・教員採用試験が難しい現在、暗記と受験要領のよいものだけが教師になれる。

個性ある教員の減少

自ら考え行動する教師の減少

- ・期間の短い教育実習で学生にとって、十分な指導ができない。

教育実習期間の延長を実施している大学もある。

- ・継続的な指導が、困難である。

- ・こどもとの関わりが不足している。

であると、放送されていました。

今、教育実習を、見直す時期にきています。

本校では、実習期間については、現在、2週間から4週間(中学校では、3週間)になっています。この短い実習期間で、教員としての資質の向上を求めることは、困難であると考えます。

かといって、実習期間の延長は、実習受け入れ校にとって、無理なのが現状です。

教育実習で本当に必要なものは、教育技術もとより、こどもたちと、いかに関わり理解することができるかということだと考えます。

そのことは、指導教官と学生との関わりにおいても大切なものであると考えます。

現在の状況では、実習期間や学生との関わりに於いて十分なコミュニケーションが図れていないと考えられます。

・和歌山大学の現状

・ネットワーク設備について

現在、大学等の情報基盤の整備が急速に進んでいる。文部省では、従来から独創的、先端的な優れた学術研究を生み出すための基盤として、大学等の研究者が必要とする学術情報を迅速・的確に提供するとともに、研究成果を国内外に普及するための総合的な学術情報システムの整備を進めてきています。通産省においても100校プロジェクトに見られるように、教育現場に対しても情報ネットワークの整備を進めてきています。

和歌山大学においても学内LANの整備が進んでいます。ORIONS地域ネットワークに参加し、インターネットを通じて全世界とつながっています。附属小・中学校においては、約10Km離れた大学と光ケーブルで専用回線（通信速度通常128Kbpsしかし1.5Mにも対応）がひかれ、附属養護学校では、PPP接続で、各種コンピュータを有機的に結び高速に大容量の情報通信を実現し、インターネットを通じ、ホームページによる情報の発信・受信、データベースの検索、電子メールの交換など多様かつ高度の情報サービスの提供を可能としています。

また、附属小・中学校では、校内にイーネットが引かれ、各普通教室・メディアホール・特別教室・研究室などすべての部屋に情報コンセントが設置され、端末としてのコンピュータが設置されています。

また、大学においては、情報処理センターや教育実践研究センターに端末が、かなりの台数設置されています。

それらの端末は、それぞれの学校で児童・生徒・学生・教官が自由に使える環境にあります。

・教育実習の現状

教育実習の事前実習は、2月の中旬に大学での講義と附属学校での実習を含め3日間実施されており、また、事後実習は、11月に2日間本実習のあと実施されています。本実習は、9月に3週間実施されています。

大学と附属学校は、同じ敷地内になく、紀ノ川をはさんで約10KM離れています。そのため、2月の事前実習から本実習までの6ヶ月間は、学生と実習指導教官との間で、コミュニケーションをとる機会がほとんどとれません。また、学生も生徒の様子を観察する機会も余りとれないのが現状です。

こどもたちの情報を十分得ることなく実習に望まなければならないのが現状です。

学生たちの意欲の喚起と、目的意識の向上、充実した実習のためコミュニケーションの活発化をはかる必要があると思います。

・ 実際の指導

現在、実施されているインターネットを利用した教育実習の指導は、

- (1) 電子メールによるコミュニケーション
 - (2) ホームページによる指導
 - (3) オフラインミーティングによる指導
- です。

(1) 電子メールによる指導

1994年より数学科の学生を対象に教育実習の電子メールによる指導を実施しました。現在は、数学科だけでなく他の教科や学級指導についてもおこなっています。

事前実習が前年度2月に実施されてからのち、9月の本実習までの間、電子メールによって、実習までの課題の提供、および学生からの質問などを個別及び全体に指導してきました。


学生は、大学の端末からや家のコンピュータから、メールを送り、教育実習までの自己研修に役立てることができました。

また、実習受け入れ校と学生・大学教官の三位一体となった指導により、本実習において、今までの実習指導以上の効果が上がったと考えます。

教育実習の部屋のホームページ

27 High School at Wakayama.ac.jp
http://www.wakayama.ac.jp/DOC/index7.htm
和歌山大学
http://www.wakayama.ac.jp/DOC/kenman/syuu/men/syuu.htm

■教育実習の部屋■



実習の案内

- 事前実習終了しました。
(1996年2月23日(金) (大学) 2月25日(月)から2月28日(木)まで (附属中学校))
- 本実習
(1996年9月6日(金)から9月26日(木)まで)
- 事後実習終了しました。
(1996年12月2日(土))

●教科別課題 (実習までの課題を書いています。)
英語：社会：英語：理科：音楽：美術：保健体育：技術：家庭：英語

●実習生の研究課題 (教育実習にあたって) NEW!

●実習情報
：アドバイス (先輩や教育からの実習についての)
：メッセージボックス
(質問や質問など自由に書いてください)

●学級の様子
●学級日記
●生徒会活動

教育実習 (数学科)

📖 授業について 📖

- 実習指導要領
- 実習指導書の書き方
- 小研指導案
- 教育実習までの課題
- 実習単位
- 参考教育サイト

Mail: sakuragi@wakayama.ac.jp

27.com

Mail: sakuragi@wakayama.ac.jp

(2) ホームページによる指導

附属中学校のホームページには、「教育実習の部屋」というページがあり、この中で、学生に対して様々な情報を提供しています。

内容は、

- ・教育実習の実施案内（日程や内容について）
- ・教科別課題
- ・実習生の研究課題（教育実習での学生ごとの研究テーマ）
- ・実習情報
 - ・先輩や教官からの実習に関するアドバイス
- ・教科指導について・生徒について・生活についてなど
- ・中学校の各学級のホームページへのリンク
- ・学級のホームページ・生徒会活動・学級日誌

です。

学生は、事前にインターネットを使って、これらの情報を得たり、また、教育実習に関する質問のページで実習担当教官に個別に指導の電子メールを送ることが可能です。

96年度教育実習生の研究テーマ

http://www.sfts.wakayama-u.ac.jp/OOC/GISHU/96kado.htm

Wakayama-U ALI High SCHOOL INTERNET

http://www.sfts.wakayama-u.ac.jp/OOC/gshu/96y_u_01.htm

96年度 教育実習生の研究テーマ

教育実習生の本実習までの研究テーマです。

また、このテーマについては、附属中学校の教官の指導を受けていないので、今後、変わっていく可能性があります。また、お互いに関心のあるテーマについて取り組んでいるから、研究テーマごとに情報交換をして、本実習に生かしてください。

本実習まで約6ヶ月あります。その間に自分の研究テーマを理論づけて本実習でその実践をおこなえるようにしておきましょう。

また、電子メールや、質問のページで、担当教官に自分のテーマについて、質問したりして、自分の考えをまとめておきましょう。

次に、本実習後にシンポジウムもありますので、発表できるように準備しておきましょう。

国語科・社会科・数学科・理科・音楽科・美術科・保健体育科・技術科・家庭科・英語科

実習に関する質問

国語科

生徒とのかかわり方について（久保田美子）
わかりやすい授業（伊東美穂）
国語の授業方法について（藤村幸子）
国語の面白さを伝える授業（松田智子）
わかりやすい授業・興味のある授業（笠松尚子）

社会科

少しでも多くの生徒が関心を持つ授業（細川美奈）
（考える）授業（宮城友美）
生徒とともに考えたい授業（西出基紀）
生徒をもっと引き出す授業（島田義典）
考える授業（宮崎清子）
暗記でなく「社会科」（伊藤光夫）
生徒に問題意識を持って考えさせる授業（山口幸司）
考える授業（中野清之）
授業を「考える」ために（下澤達也）
生徒に興味をもたせる授業（神田保博）
社会科の面白さを伝える授業（山口幸司）
生徒の興味を引く授業（宮田清子）
楽しく、わかりやすい授業（宮田清子）
生徒に考えさせる授業（堀江順一）
一つの歴史をあるある目で見よう（土井広行）
歴史と現代（林田 太）
いろいろなことについて知り、それについて自分なりに考えをもてる指導（村瀬節子）
生徒が自ら考え、自ら学ぶことのできる授業（山口幸司）
生徒との対話の仕方（土井清子）
自分のこととして、考えさせる授業（堀江 健）
考えさせる授業・歴史の持つ授業（田中 寿）
社会科と教科内容との関わり（田中 寿）

教育実習情報（学生用）

WEF-NET

教官・先輩たちからのアドバイス

このページは、教育実習のいろいろな情報を提供する場です。

このページをかく Back

先輩からのアドバイス

1. 教科について
2. 生徒について
3. 食事について
4. 実習中の生活について

教官からのアドバイス

国先輩からのアドバイス

国語科について

- 本実習に臨む前に、実習の内容について、指導教官と相談したほうがよいです。（45 A 310）
- 指導教官の書き方が、まったくわからない状態で実習に入ってしまうと大変です。（45 A 308）
- とても大変なけど、こどもたちが助けてくれます。でも、教科研究はしっかりしておいたほうがよいです。（45 A 305）
- 国語で教科研究などの授業を受けていてもびっくりしてうまくいきません。（45 A 320）
- 授業案は、早く早めに考えておいたほうがよいです。（45 A 315）
- 自分が大事にしている、その教科が得意なことが大切だ。（45 A 307）
- 別の国語本は、なかなか便利ですね。ただ、いろいろな国語本（パズル本・ナテン本）が、あってもいいですね。（45 A 305）
- 自分の研究の成果（歴史や地理・化学や物理など）になることは限らないので、専攻以外の内容も準備しておくといいですね。（45 A 306）
- 実習前に、「だいたいこんなことをやりたいな。」ということは、考えておいたほうがよいでしょう。やりたことがはっきりしないと生徒は、まったく理解してくれないし、協力してくれないと思います。（45 A 321）
- 授業案は、早く早めに、ためると大変。（45 A 314）
- 美術の場合、特に国語の授業をするとき、その絵や作者について前もって調べておくほうがよいです。（45 A 304）
- 数学では、当たり前の思っている定理について説明しなければならぬので大変。（45 A 301）
- 数学では、タイムテーブルを勉強しておいてください。（43 A 402）
- 音楽で、実習中に、ピアノの練習はできません。事前に練習しておいたほうがよいです。（45 A 304）
- 英語は、授業中使うことが多いので、イラスト集を用意しておいたほうがよいです。（45 A 313）

このページをかく 上に戻る

本実習までのあいだ、今まで課題となっていた、生徒の情報の不足や、実習担当教官とのコミュニケーションの不足をここで、解消できます。

また、学生と生徒とのコミュニケーションも電子メールやホームページにより行うことが可能で、本実習までに生徒とのコミュニケーションを図ることも可能になりました。

学生同士については、同じ教育実習研究課題をもつ同士で、連絡を取り合い事前に共同研究することも可能になりました。

今まで、十分に時間を確保できなかった実習指導がインターネットを活用することで、学生個別に、継続的に、より充実した内容で行うことが可能となりました。

ホームページという一つの空間を共有することで、互いに情報を共有することができ、より効果的に教育実習指導できると考えます。

(3) オフラインミーティングによる

しかしながら、ネットワークだけの指導に終始しては、実際のこどもたちとの関わりにおいて、不十分であると考えます。

より、深い関係を持つためには、オフラインミーティングにおいて、実際に顔をつきあわせて、コミュニケーションを図ることが大切であると考えます。

電話によるコミュニケーションから、コンピュータネットワーク（マルチメディア）によるコミュニケーションへと世界は、変化しています。しかし、大切なものは、人と人とのつながり・・・「ヒューマンネットワーク」・・・の構築では、ないかと考えます。

学生と教育実習指導教官・大学教官とのネットワークがより意欲のあるまた、すばらしい教員を育てることができるのではないかと考えます。

つまり、教育実習とは、2、3ヶ月の指導に終わるものではなく、生涯にわたり、必要なものではないかと考えます。

・ 学生の声

学生たちのインターネットの指導についての感想は、

- ・ 学校や生徒の様子が事前にわかり、本実習に生かすことができた。
- ・ 様々な質問に対して、個別に指導を受けることができ、疑問を解消できる機会

0743104000

http://www.sps.wakayama-u.ac.jp/messages/06_222b.htm?

・ 96年 2年B組の学校日誌 2月号 16日～29日

(読者の皆さんから送って下さい。)

11月の日誌 2月号の日誌1月～15日 2月号の日誌16日～29日 3月号の日誌 日誌を書く ホームページ

11. 2月16日 (2)

Subject: 上野 真由

Comment: 今日は、日誌を書くことができました。6時間目には、持参のことで話し合いました。それぞれの場で、意見が違いましたが、6時でした。明日から、持参ができなくなるので、まだ持参をしない方がいい。でも、今一歩踏み出すことが必要でした。

Subject: 山野 真由子

Comment: 今日は、持参の事について話し合えて良かった。私の持参の人も悩んでいた。今後で話し合えて良かった。これで持参がなくなった。それで、皆が持参をしてくれればいい。

Subject: 池田 (2月16日)

Comment: 今日の午会で、持参のことで話し合いました。



1. 持参は、必要なのか。
2. 持参をしない人は、たまたまなのか。
でした。
話し合いました。そこで結論として、
結論は、

と、話し合いました。持参をしないから、教員は、どうなるか・・・一歩ためてみよう・・・

と、話し合いました。

そこで、今日から、月曜日まで3日間持参をしないことにしました。

この話し合い、一人一人が自分の問題として、考えられることを望みます。

11月の日誌 2月号の日誌1月～15日 2月号の日誌16日～29日 3月号の日誌 日誌を書く ホームページ

Mail: 0743104000@wakayama-u.ac.jp

が増えた。

- ・こどもとのコミュニケーションが事前にとることができた。
 - ・教育実習についての様々な情報（先輩や教官からのアドバイス）がホームページで紹介されているので、事前に知ることができよかった。
- など、今まで、不十分だと思われていたことが、生かされたと考えられる。

・ 今後の課題

インターネットを利用した教育実習を全教科に於いて開始したのは、本年度（1997年度）よりです。

今回は、インターネットによる教育実習の構想を提案するにとどまり、今後、利用の実践の報告と、その効果について提案していきたいと考えています。

また、学生が、ネットワークを自由に使える環境の整備（大学・学生・教師）もさらに充実していくことが必要で、学生が家からでもインターネットへアクセスできる環境の整備も必要であると考えています。また、学生に対してインターネットの利用についての大学での講義の整備なども必要になってくると考えます。現在、1年生で情報の講義を必修にしています。電子メールの書き方と、基本的なコンピュータの操作についての講義を設定しています。

学生が意欲的に教育実習に取り組めるよう今後でてくるであろう様々な課題について研究していくことが必要であると考えます。また、大学を卒業してからも、だがいネットワークを持ち、情報を交換及びコミュニケーションをとることで、相互に教員としての資質の向上ができるのではないかと考えます。

そのためにも、ひととひととのつながり「ヒューマンネットワークの構築」が必要であると考えます。

・ 参考資料

和歌山大学教育学部附属中学校ホームページ

<http://www.ajhs.wakayama-u.ac.jp/>

教育実習の部屋

<http://www.ajhs.wakayama-u.ac.jp/doc/index7.htm>

和歌山大学のホームページ

<http://www.wakayama-u.ac.jp/>

和歌山大学教育学部のホームページ

<http://jiji2.edu.wakayama-u.ac.jp/>